

生徒が持つ事前情報は教師の評価に影響を与えるか

一ノ瀬 暖大

先行研究では、事前情報を与えることにより、事前情報から発生した期待の効果が、認知に影響を与えることが明らかになっている。教育場面においても、教師の魅力度を事前情報として与えることで、教師の生徒に対する説得の効果が変わることが示されている。しかしながら、生徒の授業の満足度を左右する授業理解への影響は議論されていない。そこで本研究では、教師の評価に関する事前情報を生徒に与えることで、教師の評価および事業の理解度に影響が及ぶかを検討することを目的とした。そこで検討に当たり、先行研究から、仮説 1: 生徒が教師に対してポジティブな事前情報を持っている場合、その教師および、その教師が行う授業を高く評価する、仮説 2: 生徒が教師に対してポジティブな事前情報を持っている場合、その授業に対する理解が深まる、の 2 つを仮説として設定した。なお検討に当たって、実際の理解度を測定するため、質問項目による測定を主観的理解度、テストの点数による測定を客観的理解度と定義し、理解度を測定した。

仮説を検討するため、教師をポジティブに評価する情報、または教師をネガティブに評価する情報を提示したのち、授業映像を視聴させた。その後、客観的理解度を計るための授業内容に関する確認テスト、主観的理解度・授業および教師の評価を問う質問に回答を求めた。なお、各事前情報はおよそ半数ずつが提示されるようにした。

調査の結果、事前情報の種類による影響は、主観的理解度、授業および教師の評価においては有意であったが、客観的理解度に関しては有意な差は見られなかった。つまり、仮説 1 は部分的に、仮説 2 全面的に支持された。したがって、事前情報として教師のポジティブな評価を与えると、ネガティブな評価を与えた場合に比べ、同じ授業映像を見せたときでも、授業および教師を高く評価し、主観的理解度は高まることが示された。このことから、事前情報によって教師への期待を喚起することで、授業および教師の評価は高くなり、実際の授業理解によらず、主観的な理解度が向上することが示唆された。（社会心理学）